

お客様とのコミュニケーションのコーナーです。

実験のコツ

「手抜きプレーティング」 匿名希望 ぼんぼんさん

通常、プレーティングしたプレートは37℃でover nightですが、週末休みたい私は、金曜のトランスフォーメーション後、月曜日の朝までプレートを実験台の引出しに隠して(笑)います(@室温)。温度が不安定?な時は室温にした保冷箱様の登場。キムタオルで巻いて中にIN。プレートのふたはパラフィルムで軽く巻いておいても良いですね。特殊なコンストラクトでなければ、問題なくコロニーが生えます。コロニーが小さいかしらという時は、2-3時間37℃にそっと入って載きます。(ちなみに、カラーセレクションの場合は、まじめに行ってください!)

*E.coli*の試験管培養も1hr程振った後、週末は私同様目につかない所@室温で休んでいただいて、月曜日に37℃で2-3hr程振ってプレップ。心持ち薄めですがプラスミドはきちんと取れます(3mLまで。大量培養はまじめにしましょう)。敢えてコツと言えば、抗生剤を濃い目に入れるということ(通常量の1.5倍程度。普通に振るときでもAmpだと8hr、Kmでも10hrも振ればO.K)。抗生剤を入れたLB培地を室温に置いている人がわりといるのですが、個人的に駄目だと思っています。どう考えても活性が落ちているのではないかと思うのでラボの慣例に従わずLB培地は一人で4℃に入れている私なのでした。



編集部からのコメント:必ずうまくいく実験は、なるべく工夫して効率化したいものですね。土日を有意義に過ごせて、かつ月曜日の午前中から臨戦状態に入れるという意味で大変良い方法のように思います。

実験川柳特集 3

サンプルが 透析中に MIA

匿名希望 Loft さん

【句評】 MIAって、“missing in action” (行方不明兵) のことなんですね。折角のサンプルが透析中になくなってむなしいですよ。

出せぬなら 出してみせより キャンゲット

匿名希望 タイガース さん

【句評】 メーカーとしては大変ありがたい一句です。皆様、WB解析には *Can Get Signal*®をお使いくださいませ。川柳としても大変よくできていると思います。

誤差もなく 描けたグラフが 右下がり

匿名希望 OH さん

【句評】 OHさん、またまたご投句ありがとうございました。ノーベル賞級の研究はこのような事例を突き詰めて得られることも多いと聞きます。あきらめずに実験を続けてみては如何でしょうか?

●OH さんのコメント:

期待&予想していた結果は右上がりだったのですが、結果は右下がり。誤差はないので疑いようがなく、残念。

10年前 チップ洗いが なつかしい

匿名希望 北山のおぎん さん

【句評】 確かに。私の学生時代にもチップ洗浄当番なるものが存在しました。再生チップでタンパク質定量試薬を吸い込むと、その段階で着色したりして。懐かしいです。

インサート そこにあるのに 切り出せず

匿名希望 あっちゃん さん

【句評】 追い詰められている時の「コンパチ」サイトって魅力ですよ。後で後悔することも多いですが…。

●あっちゃん さんのコメント:

切断末端がcompatibleな制限酵素 (*XbaI*と*NheI*) どうしてつないだために、悲しい思いをしました。

⇒弊社ウェブサイト(読者のコーナー>ご投稿コーナー)からご投稿、ご投句いただけます。

<http://www.toyobo.co.jp/seihin/xr/lifescience/tech/reader/contribute/index.html>

採用になった方には、図書カードをご進呈いたします。詳細は上記ウェブサイトをご覧ください。